

令和6年度 社会 授業改善推進プラン

台東区立富士小学校

<課題>

- ・学力調査において、観点別に見ると、知識・技能等の習得に課題がある。
- ・各学年、各領域によって理解の差があり、5年生の「自然災害から暮らしを守る」等、既習事項が定着していない領域がある。
- ・基礎的な問題の理解力に課題があり、基礎基本の定着が必要である。

<特に育成を目指す資質・能力>

- ・前年度までの既習事項の復習をし、基礎的な知識の理解を深める。
- ・資料を読み取ったことを基に考え、課題に対して自分の考えを表現する力を育てる。

<指導方法・体制の工夫>

- ・意図的に既習事項を絡めて学習する時間を取り、基礎的・基本的な知識の継続的な定着を図る。
- ・資料の読み取り方について、事実の読み取りに加え、自分の考えを表現する学習活動を多く取り入れる。
- ・児童にとって身近な題材から資料を準備したり、体験活動を多く取り入れたりして興味関心を高める。

3年

- ・資料を読み取る時の視点を明確にすることで、基礎的・基本的な知識の定着を図る。
- ・単元の学習後に新聞やリーフレットを書くなどして資料を活用して表現したり、学習したことを確認したりする習慣を身に付けさせる。
- ・見学やゲストティーチャーとの学習など、体験活動をできるだけ多く取り入れて、興味関心を高めるとともに、実感を伴った理解ができるような指導を工夫する。

4年

- ・学習問題を解決するために、必要な情報を資料から読み取ったことを基に、考える活動を設定する。意図的に既習事項を絡めて学習を進め、基礎的・基本的な知識の定着を図る。
- ・資料を読み取る活動、まとめる活動、伝え合う活動という流れを意識した学習を意図的に行い、学習したことを自分事として考え、表現する習慣を身に付けさせる。
- ・見学等ができない学習領域に関しても、実感を伴った理解ができるように動画教材やICT教材を有効活用し、指導の工夫を図る。

5年

- ・資料（地図、表やグラフ等）の読み取り方を指導するとともに、既習事項の復習をする時間を設け、基礎的・基本的な知識の定着を図る。
- ・学習した社会的事象が自分の生活と密接に結びついていることに気付かせ、関連させて考える学習活動を意図的・継続的に行い、思考・判断・表現する力を育てる。
- ・調べ学習をする前に、予想をしたり話し合わせたりすることで、確かめたい・知りたいという意欲を高める。

6年

- ・既習事項を振り返る時間を授業に取り入れ、知識の継続的な定着を図る。
- ・1人1台端末やミニホワイトボード等を活用して、思考を共有しやすくし、互いの考えを深められるようにする。
- ・普段から地図帳や資料集を使用して、資料を活用する能力を高める。資料（年表やグラフ等）の読み取り方を指導するとともに、それを児童が主体的に活用できるようにしていく。そのために、複数の資料を比較したり組み合わせたりして考える活動を継続的に行っていく。